

履修科目決定モデル

1. はじめに

大学では、一定の条件はありますが、高校までとは異なり、勉強しようとする科目を自由に決めることができます。しかし、自由に選択しなさいと言われても、どうすればよいのか分からないという学生が多いので、1年次生のために履修科目決定モデルを作りました。これを参考にしながら、『履修要綱』にしたがってあなたの履修科目を決めてください。

2. 経営学科

(1) 履修科目決定のポイント

- ①春学期は1セメ配当および1-2セメ配当、1-8セメ配当、秋学期は1-2セメ配当および1-8セメ配当、2-8セメ配当科目を履修できる
- ②春学期、秋学期とも最大で22単位まで履修できる
- ③クラス指定された科目(必修科目、登録必須科目)を軸にする

クラス指定された科目は、必ず履修しなければならない科目です。履修相談会時に配布する『経営学科クラス一覧』に各自のクラスが記載されています。『経営学科クラス一覧』から、自分の学籍番号を探して履修するクラスを確認し、『経営学部 授業時間割表』から該当するクラスを見つけ出しマーカーで塗り潰します。

『経営学科クラス一覧』

学籍番号	春学期・秋学期共に開講			春学期開講			秋学期開講
	健スポ	英会話	フットボール イングリッシュ	ビジネス プランI	基礎 ゼミナール	KGUキャリアデザ イン入門	ビジネス プランII
218E1501	J (金・2)	営1J (金・1)	営1C (金・3)	C (水・1)	江頭(月・2)	B (月・1)	(月・2)
218E1502	G (金・3)	上級A (水・2)	営1K (火・1)	D (水・1)	辻 (金・2)	D (月・2)	(金・2)

アルファベットは指定されたクラスを表し、()内は該当するクラスがある曜日・講時を表します。

※例えば上記の場合、学籍番号 218E1501 の学生は、健康スポーツ I・II は金曜日の2講時に開講している「J」クラスが指定されていることを表しています。

- ④専門科目は、基本科目の1セメ配当科目、秋学期については2セメ配当科目を優先する
専門科目については、1セメ(1年次春学期)、2セメ(1年次秋学期)ともに、基本科目を優先して履修します。
- ⑤総合科目は、1セメは総合基礎科目、2セメは総合テーマ科目を優先する
卒業要件を満たすためには、専門科目だけでなく、総合科目も履修しなければなりません。1セメは総合基礎科目を、2セメは総合テーマ科目を優先的に履修すると良いでしょう。
- ⑥春学期をベースに秋学期を考える
春学期は、自らの興味関心を考えつつ、クラス指定科目を軸に、その前後の時間帯に、専門科目や総合科目を配置しながら時間割を組みます。秋学期は、春学期に履修した科目のウラにあたる科目を選択すると時間割を組みやすいといえます。春学期に履修した科目の担当者は秋学期も同一曜日講時で別の科目を担当していることが多いので、その科目を履修すると良いでしょう。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記IC」(野村)を履修した場合、秋学期も同じ月曜5講時の「簿記II C」(野村)を履修するといったイメージです。もちろん、春学期、秋学期で全く別の科目を履修しても構いません。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記IC」(野村)を履修して、秋学期は火曜2講時の「簿記II D」(石渡)を履修するといったことも可能です。

⑦ 1日の履修科目数は3科目前後にする

大学の授業は、予習復習を前提に成り立っていますので、1日にあまり多くの科目を履修するのは好ましくありません。クラス指定科目の配置にもよりますが、1日3科目程度を目安にすると良いでしょう。

(2) 履修科目決定ステップ

① 春学期

〔ステップ1〕 クラス指定科目

経営学科は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目をマークすることができれば、春学期に7科目9単位の履修科目が決定します。

【春学期】 合計9単位

- 健康スポーツⅠ (1単位)
- 英会話Ⅰまたは英会話(上級)Ⅰ (1単位)
- フレッシュャーズ・イングリッシュⅠまたはフレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅰ (1単位)
- 基礎ゼミナール (2単位)
- KGUキャリアデザイン入門 (2単位)
- ビジネスプランⅠ (2単位)

※あなたはこの他に、『経営学部 授業時間割表』にマークされていない曜日・講時の授業科目を春学期に13単位まで履修することが出来ます。

〔ステップ2〕 経営学科目の基本科目または資格取得講座

次に、1セメスターから開講されている基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業Ⅰ」、「簿記Ⅰ」、「現代流通Ⅰ」、「パソコン演習[ビジネスソフト]」の4科目が開講されています。基本的には、これら4科目の中から3科目6単位を履修するとよいでしょう。また、大学入学前から資格取得に関連する勉強してきた人は、資格取得講座の中から自分の目標に合った無理のない科目を履修するのもよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記Ⅰ」ではなく「簿記および演習Ⅰ(3単位)」を履修してください。

〔ステップ3〕 総合基礎科目

総合科目の「総合基礎科目」の中で興味のあるものを春学期に開講されている科目から3科目選択してみましょう。なお、1年生のみの開講科目である、「文章を書く」と「パソコン入門」は今後の学習を円滑に進めるためにも、ぜひ履修して欲しい科目です。

※上記〔ステップ3〕までで、春学期21単位が決まりました。残る1単位は、大学生らしく第二外国語に挑戦してみてください。

ちなみに、春学期に履修できる1単位科目には、英語以外の外国語の「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)初級Ⅰ」「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハンガール)初級会話Ⅰ」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで21単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』112頁の「経営学科科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで春学期22単位が決まりましたので、これ以上履修登録は出来ません。

② 秋学期

〔ステップ1〕 クラス指定科目

経営学科生は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。全ての科目をマークすることができれば、秋学期に4科目5単位の履修科目が決定します。

【秋学期】 合計5単位

- ・健康スポーツⅡ (1単位)
- ・英会話Ⅱまたは英会話(上級)Ⅱ (1単位)
- ・フレッシュャーズ・イングリッシュⅡまたはフレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅱ (1単位)
- ・ビジネスプランⅡ (2単位)

※英語上級クラスの学生で秋学期から「グローバル人材育成プログラム」の英語の履修を希望しない人は、「英会話(上級)ⅡM(営1M)」「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅱ(営1M)」を履修登録します。

※秋学期から「グローバル人材育成プログラム」の英語の履修を希望する人は、「English CommunicationⅠ」(水・2、1単位)「ESPⅠ」(金・3、1単位)「ESPⅡ」(月・3、2単位)の3科目を履修登録します。

※あなたはこの他に、『経営学部 授業時間割表』にマークされていない曜日・講時の授業科目を秋学期に17単位(グローバル人材育成プログラム希望者は15単位)まで履修することが出来ます。

〔ステップ2〕 経営学科目の基本科目または資格取得講座

次に、経営学科目の基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業Ⅱ」、「簿記Ⅱ」、「現代流通Ⅱ」、「パソコン演習[ビジネスソフト]」、「経営管理Ⅰ」、「会計Ⅰ」、「コンピュータとインターネットⅠ」、「コンピュータとインターネットⅡ」、「マーケティングⅠ」の9科目が開講されています。これら9科目の中から春学期に履修した科目のペア科目を中心に、5科目10単位分を履修するとよいでしょう。また、大学入学前から資格取得に関連する勉強をしてきた人は、資格取得講座の中から春学期に履修した科目のペア科目を履修するのもよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記Ⅱ」ではなく「簿記および演習Ⅱ(3単位)」を履修してください。

〔ステップ3〕 総合テーマ科目

総合科目の「総合テーマ科目」の中で興味のあるものを秋学期に開講されている科目から3科目、選択してみましょう。

※上記〔ステップ3〕までで、秋学期21単位が決まりました。残る1単位は1セメスターに第二外国語を履修した場合は、同科目のⅡを履修しましょう。第二外国語の履修をしていない場合は、キャリアスキル[数学]Ⅰ、キャリアスキル[言語]Ⅰを履修するとよいでしょう。

ちなみに、秋学期に履修できる1単位科目には、学部キャリア科目の「キャリアスキル[言語]Ⅰ」と「キャリアスキル[数学]Ⅰ」の2科目と、英語以外の外国語の「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハングル)初級Ⅰ・Ⅱ」「各国語(ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/ハングル)初級会話Ⅰ・Ⅱ」があります。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで21単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』112頁の「経営学科科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで秋学期22単位が決まりましたので、これ以上履修登録は出来ません。

各科目群の授業科目の概要

総合科目

大学での教育は、狭い範囲の専門知識を習得させることだけを目的としているのではない。幅広い視野、深い思考力、斬新な創造力、そして的確な判断力に基づいて専門知識を主体的に活用できるばかりでなく、幅広い教養をベースに倫理や覚悟を持つ人材の養成を重要な課題としている。

総合科目は、総合基礎科目と総合テーマ科目の2つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素が集中的に学修できる。「パソコン入門」では、学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力を身につける。「文章を書く」では、レポートや論文作成の基本となる読解力、理解力、文章作成力、表現力を培う。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成などの力を身につける場が「基礎ゼミナール」で、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなろう。

総合テーマ科目では、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

キャリア科目

キャリア科目は、関東学院大学の学生として、経営学部の学生として、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「キャリア教育科目について」(p. 38)を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経営学部の学生として身に着けてほしいキャリアスキルを学ぶ科目群となっている。

外国語科目

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[選択必修英語A][選択必修英語B][選択英語A][選択英語B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

[選択必修英語A]は、1年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。

[選択必修英語B]は、2年次に配置され、指定クラスで受講しなければならない。卒業までに必ず規定単位数を満たさなければならない。再履修となった場合は、[選択英語A]および[選択英語B]で代替することができる。また4単位まで[英語以外の外国語]で充当できる。

[選択必修英語A]と[選択必修英語B]は、習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。1年次はオリエンテーション期間に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」または「フレッシュャーズ・イングリッシュ(上級)Ⅰ・Ⅱ」と「英会話Ⅰ・Ⅱ」または「英会話(上級)Ⅰ・Ⅱ」(各1単位、計4単位)を履修する。再履修となった場合は、さらに基礎的なことを学ぶ[選

(2017~)

択英語A)の「基本英語Ⅰ・Ⅱ」(「フレッシュャーズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」の代わり)と「基本英会話Ⅰ・Ⅱ」(「英会話Ⅰ・Ⅱ」の代わり)で代替する。2セメスターからグローバル人材育成プログラムに入る者は、「フレッシュャーズ・イングリッシュⅡ」に代わり「ESPⅠ」(1単位)を、「英会話Ⅱ」に代わり「English CommunicationⅠ」(1単位)を、さらに2年次の「選択必修英語B」の1科目(2単位)の代わりに「ESPⅡ」を1学期早く選択し、2セメスターでは合計4単位を履修する。

2年次は1年次の秋学期の最後に実施するプレイスメント・テストの結果に応じて、「マス・メディアの英語Ⅰ・Ⅱ」「オーラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「国際関係と地域研究の英語Ⅰ・Ⅱ」「言語と文学の英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」より4科目(各2単位、計8単位)を履修する。グローバル人材育成プログラムに進んだ者は、「ESPⅢ」「English CommunicationⅡ・Ⅲ」の3科目(各2単位、計6単位)を3セメスターで履修する。基礎的なことを学びたい場合は、「選択必修英語A」で代替することができる。ただし、「選択必修英語A」の代わりに履修した科目以外の科目とする。

「選択必修英語B」は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年次に「選択必修英語A」や「選択必修英語B」と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満たした後も3、4年次に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

「英語以外の外国語」ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンガール語を学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語初級Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語初級会話Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)がある。初心者には、「〇〇語初級Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語初級会話Ⅰ・Ⅱ」のうち1科目以上を履修した後、「実用〇〇語Ⅰ・Ⅱ」を履修する。なお、卒業要件外国語12単位のうち4単位までを「英語以外の外国語」で充当することもできる。ただし、1年次配当分の「選択必修英語A」の4単位については、「英語以外の外国語」で代替することはできない。

「外国人留学生選択必修科目」では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語理解Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」(各科目1単位)と「論文・論説の日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語・言語と文化Ⅰ・Ⅱ」(各科目2単位)を用意している。ただし、外国語12単位すべてを「選択必修英語A」「選択必修英語B」で充当することができる。「選択必修英語A」は「選択必修英語A」で、「選択必修英語B」は上記以外の「選択必修英語A」と「選択必修英語B」で代替できる。

経済学・法学科目

経済学科目には、経営学を学ぶ上でも最低限必要な基礎科目として「経営のための経済学」を置いている。経済状況の捉え方、金利や賃金、商品・サービスの価格決定など、経営学を学ぶ上で必要な経済学の基礎を学ぶことができる。

法学科目は、その名称が示すように、実定法の各分野に照応している。わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典、すなわち、憲法、民法、会社法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法のうち、経営学と関連の深い「会社法」と「民法」については一通りの知識が得られるようになっている。その上、企業活動に深く係わりをもつ行政、労働関係の法規についても学ぶことができる。

これら法学科目の履修について、一般的なものから特殊なものへという伝統的な学び方が正しいとすれば、まず基礎的な法の分野を対象とする「民法」「会社法」、次に「行政法」「労働法」を学ぶことになる。また、企業経営との関連性という観点からすれば、「会社法」を中心として、「労働法」「民法」「行政法」を各自の関心に応じて履修することも考えられる。

経営学科目

《経営学科のコース制について》

経営学科目には、専門分野のコースとしてビジネスリーダーシップコース、サービスマネジメントコース、流通マーケティングという3つのコースがある。また、複眼的に経営学を学びたい学生には、ワーク&ライフコース、国際化と地域社会コースも用意されている。経営学科の学生

は2年(3 Semester)進級時にいずれかのコースを選択し、2年(3 Semester)以降4年(8 Semester)まで3年間各コースで勉強することになる。

経営学科目は、コースに沿って配当されている。つまり「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を・どのような順序で勉強するか」が、はっきりとわかるように科目が編成されている。これによって、学生は目標をもって、やさしい基礎的な科目からむずかしい応用的な科目へ、順序よく体系的に勉強できるようになっている。

経営学科目は、ビジネスプラン科目、基本科目、応用科目、コース科目と実践系科目の5つに大別される。

【ビジネスプラン科目】

ビジネスプラン科目は、企業や社会が抱える問題を発見しそれを解決するビジネスプランを作成するための科目群である。

「ビジネスプランⅠ」は、1年次春学期に開講される登録必須科目であり、ビジネスプランを作成するために必要最低限の知識を学習する科目である。

「ビジネスプランⅡ」は、1年次秋学期に開講される、少人数の学生に限定して行われる登録必須科目である。所属するクラスは、基礎ゼミナールと同じ曜日・講時に開講されているクラスとなる。

「ビジネスプランⅡ」では、学生を複数のグループに編成し、「ビジネスプランⅠ」で学習した内容を基にグループ単位でビジネスプランを作成する。そして、学習の成果を学期内に2回開催される発表会に参加して発表する。発表会は、複数のクラスが合同で、プレゼンテーション形式で開催される。これら発表会へ参加する準備もビジネスプランⅡ内で行う。

「ビジネスプランⅡ」の目的は、「ビジネスプランⅠ」で学習した内容を基礎としグループワークによるビジネスプランの作成を通して、主体性・自主性・協調性を身につけ、この経験・反省と「気づき」を2年次以降の理論的学習や実践的学習に活かすことにある。また、「ビジネスプランⅡ」では、グループワークや発表会においてそれぞれの役割をしっかりと果たすことが評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

「ビジネスプランⅢ」と「神奈川の中小企業」は、3~8 Semesterに配置され、さらに高度なビジネスプランの作成や神奈川の中小企業の経営戦略とビジネスモデルを実践的に学ぶ科目である。

【基本科目】

基本科目は、2年生になってどのコースを選択するとしても経営学科の学生として必要な科目である。卒業要件としては、ビジネスプラン科目および基本科目から20単位を修得する必要がある。

基本科目は、1~8 Semesterに配置されている「現代企業Ⅰ・Ⅱ」、「現代流通Ⅰ・Ⅱ」、「簿記Ⅰ・Ⅱ」、「パソコン実習[ビジネスソフト]」と、2~8 Semesterに配置されている「経営管理Ⅰ・Ⅱ」、「マーケティングⅠ・Ⅱ」、「会計Ⅰ・Ⅱ」、「原価計算基礎」、「コンピュータとインターネットⅠ・Ⅱ」の16科目からなり、これらの科目は、「基礎の基礎」となる重要な科目である。

【応用科目】

応用科目は、基本科目を受けて3~8 Semesterに配置される、「基礎の発展」という位置づけの科目である。

【コース科目】

コース科目には、学生が選択したコースについて系統的に学習し、各コースの教育目標が達成される科目が配当されている。

《ビジネスリーダーシップコース》

事業活動を長期安定的に継続しさらなる成長を目指すための経営戦略を企画・創造する知識・技術を修得し、良き企業人として必要なリーダーシップ力、意思決定力、判断力を持った人材を育成するコースである。

組織の中でリーダーシップを発揮し新戦略を企画・立案するための組織運営のあり方、財務・経営情報のノウハウを修得し、問題解決能力の向上を図る。実践ビジネス科目を中心に、主体的な学びを通してリーダーシップ力を身につけると共に、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養する。

コース科目として、3～8セメスターに、「現代トップマネジメント論Ⅰ・Ⅱ」、「戦略とイノベーション」、「組織とイノベーション」、「ベンチャービジネスⅠ・Ⅱ」、「人的資源管理」、「経営財務」、「経営倫理」、「経営分析Ⅰ・Ⅱ」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、製造・流通・サービス企業一般の総合職、経営コンサルタント等経営をサポートする仕事、起業家・事業後継者等がある。

《サービスマネジメントコース》

観光・宿泊・飲食・交通・医療・福祉・スポーツ・公共サービスといったサービスを提供する組織のあり方とその活動全体の方向性を示す経営管理について確固たるマネジメント能力を涵養し、多様なサービス提供の要請に対応して組織運営を担える人材を育成するコースである。

様々なサービスを提供する組織のあり方とその活動全体の方向性を示す経営管理について確固たるマネジメント能力を涵養し、観光、宿泊、交通などのサービス業に加え、医療、福祉、スポーツ、行政、NPOなどの組織運営を担うための能力を養う。また、顧客の要望を超えたサービスの提供を通して組織運営の強化を図る能力を培う。

コース科目として、3～8セメスターに、「サービス経営Ⅰ・Ⅱ」、「現代ツーリズム[観光]Ⅰ・Ⅱ」、「交通サービス」、「ホスピタリティ・マネジメント」、「医療・福祉のマネジメント」、「行政マネジメント」、「NPOマネジメント」、「スポーツ・マネジメント」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、旅行業、ホテル業、運輸業、各種公務員、製造・流通・サービス企業一般の総合職、福祉関連ビジネス、NPO（非営利組織）等がある。

《流通マーケティングコース》

消費者ニーズの捕捉、商品・サービスの企画・提供から消費者への訴求、効率的な流通ネットワークの構築、情報技術の活用に至るまで、流通・マーケティング・マネジメントに関する総合的な知識を修得し、流通・マーケティング・消費生活の分野でリーダーシップを発揮できる人材を育成するコースである。

マーケティング関連科目と流通関連科目を中心として、流通・マーケティング・マネジメントに関する総合的な知識の修得を図る。さらに、主体的な学びを通して、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養し、リーダーシップ力を身に付ける。

コース科目として、3～8セメスターに、「マーケティング・コミュニケーション[広告]Ⅰ・Ⅱ」、「流通システムⅠ・Ⅱ」、「ダイレクト・マーケティングⅠ・Ⅱ」、「国際マーケティングⅠ・Ⅱ」、「小売経営Ⅰ・Ⅱ」、「ブランド・マネジメント」が配置されている。

このコースが想定している進路としては、民間企業の商品企画・開発・広報担当者、行政や商工会議所でまちづくりを支援する部門、広告代理店、中小企業を対象とした経営支援等がある。

《ワーク&ライフコース》

経営学と人間諸学・社会学の知識を修得し、複眼的な視点から企業活動、自己実現、社会全体の福祉について考え、倫理観を持って適正なワーク・ライフ・バランスを実践できる人材を育成するコースである。社会全体の福祉に繋がる経済活動、組織内での適正な人的資源管理、個々人の適切な自己管理に係る科目群を中心に据え、個人、組織、社会全体を意識してビジネス活動を行うことのできる能力を涵養する。

コース科目として、「ワーク&ライフ・バランス論」、「ソーシャルデザイン」、「仕事のメンタルヘルス」、「仕事とジェンダー」、「仕事と法」、「市民スポーツ文化論」等に加えて、「労働経済論Ⅰ・Ⅱ」や「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」等、経済学関係の科目も配置されている。

このコースが想定している進路としては、民間企業 CSR・コンプライアンス担当者、各種公務員、製造・流通・サービス企業一般の総合職、小商いでの起業等がある。

《国際化と地域社会コース》

経営学の知識を身に付け、ローカル、グローバル、環境という複数の視点から、持続可能な経済発展や社会全体の福祉を踏まえたビジネスについて考え実践できる人材を育成するコースである。異文化環境の中で、もしくは地域に密着して、効率的な組織運営を行うための知識と技能を身に付ける。

コース科目として、「東アジア関係論」、「異文化間交易史」、「自然地理学」、「日本のなかのアジア」、「ヨーロッパ社会論」、「中国社会論」、「環境と地域社会」等に加えて、「アメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ」や「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」、「開発経済学Ⅰ・Ⅱ」等、経済学関係の科目も配置されている。

このコースが想定している進路としては、国際機関・NPO や NGO の異文化間コミュニケーションファシリテーター、各種公務員、海外との取引のある民間企業等がある。

【実践系科目】

実践系科目には、より実践的・実務的な観点から主体的な学習を促進するために、実践ビジネス科目、現代ビジネス科目、資格取得講座という3つの科目群が用意されている。

・実践ビジネス科目

実践ビジネス科目は、ビジネスの現場で起こっていること、起こりそうなことに対して、どのように対処するかを主体的に考え、発表する場を提供する科目である。主体的に学習し発表するためのスキルを身に付け主体的な学習の機会を提供する科目として、3~8 セメスターに、「プレゼンテーションスキル」、「資料・データ分析スキル」、「経営シミュレーション」、「コンサルティング」、「株式投資学習ゲーム」が配置されている。

なお、「経営シミュレーション」、「コンサルティング」、「株式投資学習ゲーム」は、実践的・主体的な学習に重点を置いているため、受講者個人の作業やグループワークが中心の講義形式となり、講義中はもちろんのこと前後の予復習にも相当な作業時間が取られることを理解した上で履修して欲しい。

・現代ビジネス科目

現代ビジネス科目は、ビジネスの現場でどのようなことが起こり、それに対してそこで働く人々が何を考えどのように対処してきたかを学習する科目である。3~8 セメスターに、「中小企業後継者育成実践講座」、「事業革新と事業計画」、「資本市場の役割と証券投資」、「消費生活と消費者問題」、「経済記事を読む」、「国際協力の現場」、「グローバル・ビジネスの実際」が配置されている。

・資格取得講座

資格取得講座は、その名の通り資格取得を目的とした科目である。それぞれの資格に関連した実務的な知識や能力を身に付けることによって、将来の進路決定にもプラスの影響を与えることが期待される。資格取得に高い意欲・関心を持っている学生は多いと思われることから、1~8 セメスターに、「販売士Ⅰ・Ⅱ」、「IT パスポートⅠ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランナーⅠ・Ⅱ」、「簿記検定（2級）」、「旅行業務取扱管理者」、「証券アナリストⅠ・Ⅱ」が配置されている。

【グローバル人材育成プログラム科目】

グローバル人材育成プログラムの中で、特に経営学の基本を英語で実践的に学習しようとする科目であり、「Japan Studies（経営）・（実践）」の2科目が置かれている。

【会計人材育成プログラム科目】

会計人材育成プログラム科目は、税理士、公認会計士等の資格取得と税務・会計の専門知識を活かした職業に就くことを目指す学生への特別な科目群である。1～8セメスターに「簿記および演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、日商簿記2級の資格取得を目指す。3～8セメスターに、「簿記上級」、「財務会計基礎Ⅰ・Ⅱ」、「財務会計応用Ⅰ・Ⅱ」「意思決定会計」が配置され、簿記1級や税理士資格を目指せるようになっている。

複合テーマ科目

複合テーマ科目は、複眼的に経営学を学びたい学生のためのワーク&ライフコースと国際化と地域社会コースを選択した学生に関係する科目区分である。

複合テーマ科目には、複合テーマのいずれかのコースに沿った専門科目および関連する経済学分野の科目が配当されている。複合コースを選択した学生は、1年次に経営学科目で経営学の基礎を学んだのち、この複合テーマ科目によって、コース毎の専門科目および経済学関連分野の科目を学ぶことができ、複眼的な視点を順序よく体系的に勉強できるようになっている。

複合テーマ科目はコース共通科目とコース科目に大別される。

【コース共通科目】

コース共通科目は、複眼的な視点の養成として複合テーマ2コース共通に必要なとされる科目であり、基本科目とグローバル人材育成プログラム科目からなる。複合コース選択者は、ここで選択必修科目6単位を含む12単位を修得する。

基本科目には、地域、自然、社会、コミュニケーションといった経営学以外の専門的な視点から社会で共生して生きるための基礎的な事項を学ぶ選択必修科目および経済学の入門的な科目が用意されている。グローバル人材育成プログラム科目には、「ビジネス英語」「言語と社会」「Englishes for International Communication」が配置されている。「言語と社会」は選択必修科目に含まれる。

【コース科目】

専門分野の3コースのコース科目が経営学科目のみであるのに対して、複合テーマの2コースのコース科目には、経営学科目と複合テーマ科目の2区分がある。前者では経営学の視点を学び、後者では複眼的な視点の学びとしてコース毎の専門的な内容に沿った選択必修科目および関連する経済学分野を学ぶ。複合コース選択者は、ここで選択必修科目10単位を含む12単位を修得する。

またGP海外科目として上級海外語学演習[英語]が配置されており、国際化と地域社会コースでは選択必修科目に含まれる。

専門ゼミナール

ゼミナールは、少人数の学生に限定して行われる演習である。学生は2年次（3セメスター）春学期に各ゼミナールの募集に応募し、卒業までの期間、いずれかのゼミナールに継続して所属する。ゼミナールの選択はコースに関係なく、すべてのゼミナールの中から自分の希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員（15名程度）があり、希望者が多い場合には選考がおこなわれ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績などが参考にされる場合もあるので、1年次の科目履修は十分に注意する必要がある。

ゼミナールⅠは登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、各自の希望を踏まえた上で抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文作成をするなどの活動を行う。ゼミによ

(2017~)

っては各種の課外活動やゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に応じたより深い勉強をおこなう場であることから、経営学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。